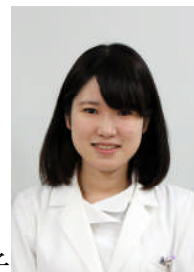


和歌山病院での実習を終えて



小林 基子

呼吸器内科の臨床実習でお世話になりました。この度は、先生方からご指導を賜り結核と、胸部 X 線画像について理解を深めることができ、また大学病院とは違った雰囲気 of 病棟で実習させていただいたり、非常に内容の詰まった有意義な時間となりました。

特に印象に残っていることは、いくつかありますが、まず、結核病棟を初めて見学させていただいたことです。病棟を実際に見学すると、病棟は必要十分の感染予防対策がなされていたことに感心しました。感染対策に注意を払うことはもちろん大切ですが、病棟は患者さんの治療中の生活空間となる場でもあるので、不安を軽減し快適にすごせるように不要な隔離はされていませんでした。それらを実際に自分で見てみることで、講義で学んだ「必要十分の感染予防対策」の大切さをより認識できました。

そして、南方院長から胸部 X 線画像の読影を非常に論理的に教えていただいたことです。今までの画像に対する捉え方を大きく変えるきっかけとなりましたし、そればかりでなく、自分で深く考えることの必要性を身にしみて感じる機会となりました。論理的に考えることが苦手な私では、今まで疑問とすら思わずに考えることを放棄して、覚えようとしていたことでも、南方先生は論理的で新しい視点で、画像の見方を変えるヒントを次々と引き出してくださり、一面的にしか見れていなかった見解が次々と広がっていくようでとても楽しかったです。正常構造の胸部 X 線画像を見ても、なぜここは線として見えているのか、なぜここにあるはずなのに線として写っていないのかなどと、正常構造も覚えるだけではなく、問いかけ、考えて理解することで初めて「異常所見」を診られるようになるのだなと実感しました。

また、南方先生が食事に連れて行ってくださったり、講義の合間などで、2 日間を通して私たちにしてくださった貴重なお話も、非常に引き込まれるものばかりで楽しく実りあるものでした。私も、医師になることだけを目標としてしまわず、そこはスタートであるということを心に留め、どんな医師となるかを考えその目標に向けて邁進していきたいと思いました。

最後になりますが、このような有意義な実習の機会をくださった南方医長、駿田副医長をはじめ、お世話になりました病院スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。